

HP 掲載文書、掲示・配布資料

<2003年1月1日から2016年12月31日までに川崎医科大学附属病院呼吸器外科において

原発性肺癌に対して手術を受けられた患者さんへ>

研究課題名：非小細胞肺癌完全切除後再発症例の臨床的特徴と治療および予後に関する研究

2003年1月1日から2016年12月31日までに当院呼吸器外科で原発性肺癌のため手術を受けられ、手術後に肺癌の再発を認めた患者さんを対象として、より適切な治療を探索するための検討を行っています。

近年、肺癌検診の普及やCT・PET検査など画像診断技術の向上に伴い、より早期の肺癌が多く診断されるようになりました。さらには、術後抗癌剤治療（術後補助療法）の有効性が証明されたことによって、手術後に抗癌剤治療を追加治療として行うことが一般的になりつつあります。手術および術後に抗癌剤治療を受けられた方の50%余りで治癒が期待できるようになりました。しかし、術後に再発を認める場合も少なくはありません。手術（肺切除）および抗癌剤治療という負担の大きな治療を受けられたことから、再発時には十分な治療を受けられない場合もあり、再発肺癌に対する治療は十分に確立しているとは言えません。一方、近年では分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など従来の抗癌剤とは異なる新しいタイプの治療薬が次々と開発され、日常診療でも広く使用されるようになってきました。これらの薬剤は従来までの抗癌剤と比較して副作用が軽微であり、かつ高い治療効果が期待されることから、これまで治療困難とされていた高齢の方や術後などで体力が十分でない方でも安全に治療が可能となっています。

本研究ではこれまでに肺癌の手術を受けられ、その後再発を認めた患者さんを対象として、初回治療（手術、術前術後の抗癌剤治療）や再発時期・部位、再発に対する治療などを詳細に検討して、今後の肺癌の治療をより適切なものにすることが目的です。具体的には以前の診療記録（カルテ）やCT画像、切除した肺癌の病理検査結果、再発の有無など術後の経過を照らし合わせることで、適切な治療方針を検討します。なお、遺伝子の検索は行っておりません。本研究の結果は学会・論文等で報告する予定ですが、個人情報厳密に管理致します。本研究に同意されない方は下記連絡先までご連絡をお願い致します。なお、この研究は川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の審査・承認を得て行っています。

今回の研究データを将来の研究のために用いたり、他の研究機関に提供したりする可能性があります。その際には研究課題について倫理委員会の審査を再度受け承認を得て実施いたします。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態といいます。

この研究は研究責任者の教員研究費を用いて行う研究であり、この研究を実施する関係者には小野薬品工業株式会社より奨学寄付金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。なお、上記企業は、本研究課題には直接関係のない企業です。

この研究への参加を希望されない方、データの送付を希望されない方は、川崎医科大学附属病院呼吸器外科ホームページ(<http://www.kawasaki-m.ac.jp/gts/>)から電子メール(gts@med.kawasaki-m.ac.jp)、または川崎医科大学呼吸器外科学教室(直通086-462-1124)または下記研究者に連絡をお願いします。

問い合わせ先：

川崎医科大学附属病院呼吸器外科学 講師 最相 晋輔

電子メール：gts@med.kawasaki-m.ac.jp

TEL：川崎医科大学病院代表(086-462-1111)

呼吸器外科実験室(内線 25519)

FAX：086-464-1124